



『子宮頸がんって何?』



しもじ内科クリニック院長

下地 栄壮



子宮頸がんは、女性の子宮の入り口の子宮頸部(けいぶ)に発生するがんです。このがんは20-40歳代の女性に多く、発症年齢のピークが出産年齢と重なります。日本では毎年約10,000人の女性が新たに子宮頸がんを診断され、年間約2,900人が子宮頸がんで命を落としています。子育て世代の母親が子供を残して亡くなるケースもあることから「マザーキラー」とも呼ばれています。

原因

子宮頸がんの主な原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染です。HPVはありふれたウイルスで、主に性交渉を通じて感染します。HPVは男女共に存在し、皮膚や粘膜にある細胞に感染します。通常は、感染しても自然に排除されますが、長い間感染が続いた場合、細胞が少しずつがん細胞へと変化していくことがあります。

症状

子宮頸がんの初期症状はほとんどないため、気づきにくいという特徴があります。がんが進行すると、性交時の出血や不正出血、おりものの増加などが見られます。

治療

治療方法は、がんの進行具合(ステージ)により変わり、手術、放射線治療、抗がん剤治療の何れか、もしくは複数を組み合わせて行います。完全にがん

になる前の高度異形成や上皮内がんの時点であれば、子宮の一部分のみを切除する「円錐切除術」で取り除くことができます。円錐切除術では子宮を温存できるため、妊娠や出産の可能性を残すことができますが、妊娠しにくくなったり、早産の可能性があります。がんが進行してしまった場合は、子宮をとる手術や放射線治療の必要があるため、妊娠・出産ができなくなる可能性があります。また、手術後には下半身の浮腫み(リンパ浮腫)や排便・排尿障害の後遺症や、性生活に支障をきたす可能性があります。子宮頸がんは早期に発見ができれば子宮を守ることができる可能性があります。20歳を過ぎたら定期的に検診を受けることが大切です。また、少しでも気になる症状があるときには、ためらわずに婦人科を受診しましょう。

予防

子宮頸がんの予防は、できる限り感染する前のHPVワクチンの接種が重要です(15-19歳の37%がHPV陽性という報告があります)。HPVワクチンは定期接種の対象となっており、対象年齢の女性なら公費(自己負担なし)で接種することができます(自己負担の場合には約5-10万円程度の費用がかかります)。日本で対象となる年齢は、小学6年生~高校1年生相当です。また、過去に定期接種の機会を逃した方も、同じように公費でワクチン接種をできる制度(キャッチアップ接種)もあります。対象は1997年度生まれ~2007年度生まれの女性で、過去にHPVワクチンの合計3回の接種を完了していない方です。公費で接種できるのは2025年3月末までですので、2024年9月末までに1回目の接種が必要です。



お知らせ

GW 中の休診日は暦通りです。5月3日(金・祝日)~6日(月・休日)までお休みとさせていただきます。ご迷惑をおかけいたしますが、宜しくお願いいたします。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)

TEL:092-605-6300